

第 6 回藤沢駅周辺地区再整備構想検討委員会

日時：2012 年 3 月 30 日（金）午前 10 時

場所：藤沢産業センター 6 階 研修室 3

1．はじめに

2．開 会

3．議 事

・藤沢駅周辺地区再整備基本計画のとりまとめ

4 その他

5．閉 会

< 議事概要 >

- 委員長 第 6 回藤沢駅周辺地区再整備構想検討委員会を開会いたします。
- 事務局 本委員会は、藤沢市情報公開条例第 29 条の規定に基づき一般に公開としております。なお、本日の傍聴者はございません。
- 委員長 それでは、議事に入ります。藤沢駅周辺地区再整備基本計画のとりまとめについて、説明をお願いします。
- 事務局 < 資料説明 >
- 委員長 資料 1 は新たに出てきたもの、資料 2 は、基本構想は検討済みで、その修正をしたものということですので、できれば、資料 1 を中心にご意見等をいただきたいと思います。
- 副委員長 今回の資料の特徴として、今までは「こういう方向に向かうべきである」ということだけ書いてきたと思うが、その方向に向かうのに、誰が何をするのかということがよく分からなかった。きょうの資料も必ずしも明確には書いてないが、部会では当面、誰が何をどこから手をつけていくかということがわかるようにしっかり書こうではないかということで、例えば 11 ページあたりは、市がこれから具体的にアクションを起こしていく事柄として 3 つ挙げてもらったわけです。特に真ん中の「にぎわい創出空間の先

導的な取組」は、部会でもかなり議論のあったところで、駅から銀座通りへ抜けていく不思議なスペース、あれは道路ですけれども、事実上、歩行者空間になっていて、しかし、快適な状態になっていないが、幅が広い。これを1つの財産として全体に共通している藤沢らしいライフスタイルの実現の場所、オープンカフェができるような場所として仕立て直しができないかとか、道路ですから、簡単にはいきませんが、接する民間側がそこに顔を出してカフェをつくっていくというような、やれるところから手をつけながら、まずここを仕立ててみたらどうかということも挙げたわけで、やや抽象的だったものが、誰が何をやるというのが少し出てきたので、一歩、二歩前進したかなと思っています。

A 委員

それに加えて、11ページの3つ目で、基本的に駅周辺を歩行者にとって歩きやすく快適な街にするということは非常に大事になってくる。そのためににぎわいをどうやって創出するかということもあるけれども、あわせてこれは駅周辺だけでは完結しないことだが、駅周辺の交通のあり方もきちんと見直すべきではないか。特に自転車の位置づけというものをしっかりとらえて、対症的なものではなく、全体の仕組みとしてきちんともう一度駅周辺でとらえ直す必要があるのではないかということについても議論をしました。それからエリアマネジメントの話では、それぞれの通りで具体的に何をやるかということについてもマネジメントの考え方を入れていく必要があるということ、それから直近の話として既に整備中である北口通り線についても、遊行通りとの関係などを1つのきっかけとして、遊行通りについても改善していく1つの手がかりにしたらどうかというようなことも、細かいところまで記されてはいないけれども、そういったことも含めて議論をしました。

B 委員

市民検討部会もこの委員会も本日で終わると聞いていますが、市民検討部会での2年間、一緒にやってきて感謝していますが、いざここまで来て、これからどうしようかという検討の部分とか、この場所を重点的にやった方がいいのではないかと、ターゲットが出てきたけれども、これから先はどうなるのか、商店街の我々としては方向性が見えないから、早く行政の方に示していただきたい。ここまでやってきて、その先の進み具合としてどういう組織が推進していくのか。地元は地元でももちろんやっていくけれども、それを受けるところがどこにあるのか。それがとても心配なところだし、せっかくここまでやってきたので、すべてとは言わないが、一番大事なところは早くやっていただきたい。きょう、たまたま日経新聞に新市長の話として駅前のバリアフリーと駅前の顔となる歴史、文化等について書いてあったけれども、もっとレクチャーをして理解をしていただくよ

うに、ぜひお願いしたいと思います。

C委員

いろいろ発言をさせていただいて、前回の議事録の中に感じられる部分もあるが、駅舎の問題は大きな要素であるので、この辺をどうするのが見えてこないというのが正直なところです。それから交通網の整備の中で、たびたび線が入っていたり、消されたりしておりますが、これからのまちづくりについては高齢化、少子化ですから、車を入れるとか自転車置場をどういうふうにするのかということも将来的には考えられるけれども、その回遊道路、例えば奥田線が消えたり、入ったり、何となく分かりにくい。駅前の車、自転車をどういうふうに考えるのか、そこが見えにくいと思いました。

D委員

この間、商店街の人を集めて半分ぐらいが町内になっているので、商店街としてどういうものをつくったらいいかという話をしたのですが、道路は上の方はでき上がっていて、あとは下の方だけやるぐらいで、道路はほとんどできているのですが、今度は、道路ができた上の方は何をやっていいのか。中には大型店舗はもう必要ないと、駅前にさいか屋があったり、ビックカメラがあったりする中に、また大型店が来るということには反対してもらえないかという意見もありました。まだ何ができるかわからないので、細かい話はできないわけですが、この委員会に出て、商店街と駅前の広場は必ずやっていきたいと考えておりますので、よろしく願います。

事務局

今後の組織ですが、駅舎改良等についても緒についたばかりで具体的に表現できるところまでに至っておりませんので、藤沢駅改良連絡調整会議等で、鉄道事業者と市と神奈川県にはオブザーバーとしてご参加いただきながら、駅と自由通路と駅前広場の深度化を図ってまいりたいと考えております。

それ以外の通りのエリアマネジメント等についても、産業振興課も関わってまいりますが、場所ごとに中身が違うという話もありますので、南北まちづくり協議会あるいは商工会議所に設置されました藤沢駅周辺まちづくり特別委員会に報告しながら、今後の取り組み方と核となるアクションプランへの商店街等の取り組みを提案させていただきたいと思っております。各組織体と協議しながら前に進めていきたいと思っております。駅舎については、24年度から深度化を図っていくという状況です。

大型店は必要ないというお話でしたが、以前、多くの方は必要だという話も聞いている中で、商店街ごとに違うのであれば、意見聴取をさせていただきたいと改めて思っています。その辺は南北まちづくり協議会にほとんどの商店街は参加しておりますし、商工会議所の特別委員会でも確認を

しながら、今後進めてまいりたいと考えております。

B 委員

市役所本館建て替えは非常に重要なポジションを占めると認識しているけれども、ぜひ駅街区とのつながりということと、周辺はそれなりに整備は進むでしょうが、肝心の市役所本館の内容、当初伺っていたものからどのような形に変わるのかということも心配なところですが、位置づけとしては駅周辺の活性化の大きな柱の 1 つであるとなっているけれども、こういうのはどこで議論をされて、どのような形で意見を集約していくのか。

事務局

市役所本館等の建て替えについては、新市長が直接請負方式でやっていくと表明していますし、よく市民のご意見を伺いながら進めていこうという話をされていますので、現位置で建て替える方向を持っていますので、あとは中身的なフロアーとかを決めて、進めていくようになるかと思えます。あわせてこの検討会議も連携するようになるかと思えますので、駅との接続も将来方向を見据えながら、どういうアクセスがいいのか、その辺も検討の中に入れておかないと、よりよいものにつながらないと思っていますので、いろいろな部局とまたがりながら進めていくようになるかと考えております。

E 委員

今の補足ですが、市庁舎プロジェクトについては、「新しい公共」という公民連携手法で市民会館、市庁舎、C - X を一体的にやるという事業手法は一たん白紙に戻りました。しかし、市庁舎については喫緊の課題であり、過年度から地域活性化のために検討してきたシティホール化を目指し、現新館は住民サービスの拠点とし、本館は政庁機能としていく。そこでシティホール機能というものを市民が常に 24 時間交流・発信できるようなものをどう入れるかによって駅周辺地区との連携も強くする。これは 4 月から早急に庁内でのプロジェクトが立ち上がりますので、この委員会の位置づけも踏まえて基本的にシティホール化は目指していく。そういう中でにぎわい・交流の市民拠点を具体化していきたいと思っています。

F 委員

会議所の立場では、藤沢駅周辺地区再整備の重要な柱として北口通り線の開発が進んでいる。これを全く白紙の状態道路をつくって、沿道に建物を配置するという事だから、その辺を考えると、今、商工会議所の建て替えに関して設計事務所が選定されて建物の設計に入っているので、あの一帯の回遊性、にぎわい性、まちづくりの方針、景観形成、街並みとかいろいろな問題を全体的にやる必要があるのではないか。これが緊急の課題なのは、既に進行しているから、勝手に会議所の考えだけでつくってしまうと、それをまたほかやると、せっかく白紙の状態のにぎわい性を求めたり、北口の代表的なエリアにしようというまちづくり検討の方が遅れ

てしまって、各土地所有者、地権者が勝手に自由にやってくださいというのでは、統一の取れない街になってしまうから、この辺は行政がガイドラインなりを早急につくるべき筋合いのものではないのか、行政はどのような対応をされるつもりなのか伺いたい。

事務局

北口通り線一帯については、ガイドライン等の必要性は十分認識する中で、実は地権者からの用地の取得がなかなかできなくて、その交渉の中で土地利用のことも出てくるので、用地問題が解決しないと取り組めないという事情がありました。おかげさまでこの年度末にすべての用地が片づきましたし、地権者との交渉過程で土地利用のことも大分話してまいりましたので、24年度の喫緊の作業としてガイドライン等については検討していく作業をしてまいりたいと思います。その過程で関係地権者と調整していきたいと思っています。

F委員

地権者個々にお聞きすると、地権者の考え方が表面に出てしまって、結果的には自分たちの考え方を主としていくということで、ガイドラインなんか意味がない。地権者の考え方を取り入れるのはいいけれども、ある程度はどういうまちにするということの網掛けは必要ではないか。そうしないと、結果的には何もしないのと同じで、地権者は俺が建てるんだから、こういう色で、こういう形で高さでやっていくと、オープンカフェなんかとんでもないとなってしまう。地権者の意見も大切ですが、全体的には地権者に対してはこういうふうなエリアにしたいという説得性を持ってやっていかないとまずいのではないかと。特に、会議所も作業部会で設計しているからすり合わせをして、オープンカフェ的なものは採用してくださいとか、そういうふうな誘導をしないと、勝手にやってしまうと、後で後悔することになると思う。

事務局

規制誘導と土地の所有権の問題、それに対する合意形成は必ずついて回るものと思っておりますが、藤沢駅北口駅前という藤沢市の中心拠点ということ踏まえ、私どもとしてもその辺を強く認識する中で、せっかくこういう場でご議論いただいた都市拠点地区ということ踏まえながらガイドライン等をつくっていくときに、地権者と一対一よりはもう少し高みに立った立場から策定していきたい。そのための理解を得る努力はしていくつもりです。

委員長

商工会議所が設計者を決めたとすることは、建築事務所は勝手なものをつくるということになるが、それでいいのかと聞いているのに、喫緊の課題でやると言っていると遅れてしまうと思う。勝手なものにしないというなら、ガイドラインの素案でもいいからすぐにつくって、これで調整してくださいと言わないと何にもならない。例えば水戸の美術館は建てるとき

に、設計者は水戸には都市計画がないから自分たちで勝手につくったと、もし都市計画があれば我々は言うことを聞いているはずだという言い方をしたわけです。実際、常磐線で水戸に入って、逆側から見たときにいい、悪いはいろいろですけれども、都市計画があつたら従つたけれども、ないから勝手にやつたと。それが建築と都市計画の間の闘いなんです。今、設計事務所が決まつたということは、建築が決まつたということなので、都市計画としても建築の方は勝手にやっってくださいと言っているに等しいから、そこはもう少し頑張らないと、商工会議所の建物が決まってしまうと、商工会議所があんなことをやっているならと周りがそうになってしまうのは目に見えている。

F 委員 建築設計事務所もまちづくりはよくわかっているから、お互いに相談して、とにかく先発隊ですから、その辺のところは気をつけて、市として多少は指導してもいいのではないか。こんなことを会議所の立場で言うのもおかしいが、都市計画のためにお互いに譲歩していかないと、いいまちづくりはできない。きちんと庁内でどういう形で持っていくか、早く決めていただきたい。

G 委員 JRとして、駅の将来がまだ見えないというのはずっと感じていたが、藤沢駅改良専門部会でいろいろ課題を出し合い、検討してきた。駅の旅客流動調査もやったけれども、資料1と資料2の成果が本委員会の成果とするならば、この専門部会の検討内容がほとんど入らなかったと残念な思いです。結論が出ないのは当然だと思っているが、将来、どういう方向にという姿だけでも藤沢市がいろいろな事業者の意見をまとめ切れなくても、ある程度の方向性をこういった委員会の資料の中に盛り込んでもいいのではないか。JRとしても藤沢駅は重要な駅ですので、来年度以降もしっかり検討に乗っていきたいと思っております。「連絡調整会議」というのは初めて聞いたけれども、どのような機関でこういったことをやるのかというのは、しっかり議論させていただきたいと思います。前回の委員会でも短期的、中期的、長期的なスケジュール感を大事にしてほしいと言いました。そうしたところと13ページで若干ついた感じはするけれども、この年度が、期間が決められた委員会でどこを目指してどうまとめていくのかは、委員会を仕切る藤沢市の役割、リーダーシップだと思うので、鉄道事業者としてもしっかりやるべきことはやっていくので、来年度以降、ぜひ調整会議の方と一緒に検討していただければと思います。

事務局 JRの話にあつたように、もう少し具体的に書ければいいのですが、小田急もいますし、中身を詰めていくにはもうちょっと深度化しないと、外に出ないのかなと思っていますので、よろしく願ひいたします。

H委員

今の話からすると、小田急の都合があるからというのは誤解で、私どもはこの素案のレベルではJRがおっしゃると同じように、せっかく専門部会でいろいろやってきたので、もう少し駅のことを具体的に書いた方がいいのではないかと申し上げた側なので、小田急の都合で、減ったのではないことだけをご理解いただきたい。

言うまでもなく南北に長い市域を小田急線は走っています。今回の駅周辺の議論では、駅周辺の方だけのための駅周辺ではないと思います。小田急線各駅停車の駅は市内にいっぱいあります。そういった市内の方が藤沢駅へ来てJR線に乗り換えたり、江ノ電で海の方に行ったりということもある。市内の市民の移動手段であると同時に、町田や新宿の方に出ていく大事な駅だと思うので、今まで狭隘の中で自分たちでできることはやってきたけれども、こういったチャンスを生かして、いいものにできればと思っています。このレポートはレポートとして、交通というのは広く色々なところの人が賑わう場なので、いいものができるようやっていければと思っています。

I委員

バスのルートとか事故防止のために道の拡幅や一方通行の導入等の話は聞いておりますので、安心・安全という観点に立つと、鉄道の駅の整備についても藤沢駅、JR、小田急駅、ショッピングモールといった話は再三出ているけれども、その中に店を出している江ノ電グループとしても方向性が見えないと、将来の計画が立たないということもあります。そこでバスについては、渋滞すると、どうしてもバスの定時運行が維持できない。その他安全を確保するとか、特に南口は駅前広場が活用されていないのではないかと、そこから入ってくる放射状の道路が狭かったり、信号で渋滞するとか、そういったことの整備についても将来的にどのようなようになっていくのかというようなことが、街をつくる上で安心できる街となると考えています。

J委員

当社はバス会社ですが、江ノ電からもお話があったように、この計画自体は南北も含めた藤沢駅前の基本から考える計画ということで、なかなかできる話ではないので、いい計画だと思いますが、実務的には北口通り線はバスが走ればショートカットで駅に早く行けるという利用者の声もありまして、こういう基本計画があるのであれば、早めにどんどん出していきたいのと、バスの利用者から言うと、朝晩のラッシュ時はどうしても藤沢は小田急線もあり、東海道線もあり、江ノ電もありということになり利用者が多いから、まず速達性をきっちり上げてくださいということと、昼間はバスのお客さんは高齢者が多く、昔からの藤沢の北口や南口のいつも行っているお店に行くお年寄りがいらっしやるので、日中に関して

はもっと周回性が高く、駅から歩ければ問題はないでしょうが、やはり高齢者の方が多いと1駅、2駅停留所あたりにバスがきちんと回れるような二面性を持った交通広場、まちづくりが今後できていってくれたらと思います。

K委員 交通の関係で1点は、駅専門部会に参加していろいろ議論をしてみました。3~4ページあたりは駅を中心とした課題が細かく記載されているので、いろいろな課題を解消するためにはどんな切り口からといったようなところを含めた書き振りをさせていただければ、部会のまとめといったものももう少し具体的に表現できるのではないかと思うので、今、利用者が使いやすい駅が見直されてきている中で、ぜひ先駆的な検討がしていけるような切り口、視点でまとめられてもいいのではないかと思います。

もう一点は、バス事業者からお話があった駅へのアクセスについて、このまとめには幹線道路について、先ほど奥田線の存在が出たり、消えたりという話がありましたし、それはまさに北部のエリアは北口で、南部のエリアは南口でというような公共交通のアクセスをぜひ充実していきたいという視点から記載していただければというのと、歩行者・自転車動線の確保ですが、ソフト的施策なり老朽化した建築物等の再整備等の中で生み出していくとか、新たにハードを進めていくというのは難しい時代ですので、その辺の確保策も切り口としてぜひ記載していただければと思います。

L委員 県の都市計画の立場ですが、活気づくりとかにぎわいづくりという視点で書かれているけれども、これから高齢化が猛スピードで進んでいく中であって、これだけの拠点に高齢者がどんなかわり方をするのかがよく見えない。この拠点の中に高齢者の視点でどんなかわりがあるのかを来年度以降で結構なので、記載していただければと思います。というのは、県の線引き見直しに向けていろいろ検討を始めようと思っていまして、そのときに高齢化率が高まっていく中で、次の線引きをどうやっていこうかという大きな検討テーマなので、できれば、この委員会でいろいろな視点を盛り込んでいただければ、それを参考にしていきたいので、よろしく願いします。

委員長 駅のことについては皆さんがおっしゃっているので、もう少し書き込めますか。

事務局 書き加えさせていただきたいと思います。

M委員 構想のまとめ方はこのような形になると思いますが、従来の構想に比べて重点プロジェクトと言いながら、地区指定の形になっていて、重点プロジェクトの部分がボケているような感じがする。駅周辺では駅街区の改良

に向けた検討と言っているが、駅がどうも主体になっていて、周辺の街区の部分の誘導については建物の更新が、実際に建て替えるという計画があるようなので、その部分はかなりスピード感を持って、誘導方策等をしっかりと検討する柱を一本立てることを検討されてはどうか。そうしないと駅の建物の更新をうまく誘導できないと思う。北口駅前の土地利用の誘導が早急な課題だという意見もあったけれども、実は駅周辺の建物の誘導をどういうふうにやっていくかということがかなり重要な課題だと思うので、次のときにその辺の柱を駅の改良だけではなくて、もう一本柱を立てて、駅周辺のにぎわい等を誘導するための建て替えを市としてどういうふうに進めていくのか、事業者にしっかり示すことが必要ではないかと思えます。

委員長 建物の更新があったときに、自動車の附置義務というのはあるが、自転車の附置義務というコンセプトを入れたら、藤沢のまちも高齢社会になってきて、歩行者、自転車が問題だと言っている中の自転車問題を解決する手段になり得るかどうか、その辺の印象を聞かせてください。

副委員長 部会でも自転車を藤沢のまちで相当積極的に使い込むということを前面に出すという議論はしてきました。そして途中段階ではできるだけ300～400メートル外側に停めて中へ入るといった議論があって、それは現実的ではないという議論もして、駅周辺で再開発なり建て替えのときにその地下1階ぐらいのところに駐輪場をきちんと一定量押さえていくとなれば、そこまですと来て、あとは歩けるという可能性は非常に重要だと思っています。ただ、それが全体の仕組みとしてうまく行くかどうかはちょっとわからないのでということで、交通システム特に歩行者、自転車などについてかなりの中心テーマにして駅周辺の交通システムを急いで検討しようというので、この重点プロジェクトの1つになっています。

委員長 建築の人はすぐ地下と言うけれども、自転車利用者から言うと、地下に入れるのはとんでもない話で、地上に置かしてもらって、収納するときに地下に入れるのはいいけれども、それと同時に通勤で使うなら、夏のことを考えると着換えのためのシャワールームとかが欲しい。そういうところまでつくと自転車は使いやすくなると思う。

N委員 私は緑とかランドスケープとか環境という面で意見を求められるのかなと思っていますので、今までも緑について意見を述べてきましたが、前回、述べたことが多少ネットワークというところで反映されていてありがたいと思っています。

今回、13ページの「主な取組」でガイドラインとか進行管理と見直しという項目が加わっているが、ここを今後緑とか環境という面でどういう

ふうに管理していくのか、非常に難しいと思う。ある程度形ができ上がってしまうと、緑というのは添え物みたいな形になってしまうので、ガイドラインでも結構ですが、緑となると、どのくらいこのまちに確保しなければいけないのか指標になるようなものをぜひ加えておくと、個々の建物の建て替えのときとかに1つの目安になると思います。

今、自転車のお話もありましたが、環境といっても幅広くて、ここに書かれている低炭素とか藤沢らしさということでの自然環境ということもあるので、そういうものをどういうふうに目指すかという指標をつくっていくか、これから議論して示す必要があるのではないか。その指標がないと進行管理は非常に難しいので、次の段階ではガイドラインの中で指標をどうつくっていくのか。どうしても緑、環境というのは後回しになりがちなので、一番最初にこのことを打ち出していったらどうかと思います。

O委員

平成24年度以降の進め方について、先ほど、藤沢市役所の建て替えは喫緊の課題として進めていくという中で、いろいろな市民の声を聞きながら、しかもこの駅中心部の中で連携を取りながらという話もありました。また、交通専門部会では来年度以降、連絡調整会議という形に移っていく。また、市民部会で検討したものは地元協議会とか商工会議所が持っている特別委員会を利用しながらという話もあったが、これは全体的な取りまとめが必要ではないか。すなわち市庁舎検討についても全部関連してくることだし、また、駅専門部会が協議会になったとしても、藤沢駅を中心とした部分については、これからの検討が必要な項目が多々ある。特に5ページでもこれからの検討が必要だと言われている部分があるかと思います。そういうことも含めながら考えると、今の構想検討委員会は確かにここで終わるかもしれませんが、何らかの形の委員会が必要ではないか。これは全体を取りまとめて、特に藤沢市の中でも緊急にやっていかなければいけない問題として、交通問題が短期、中期という話もあったが、バリアフリー問題も喫緊の課題ではないか。特に広場が北口については2階部分にある。ここから下に降りていくに難渋している人が多いということもあります。また、今までの意見の中にもこれらに対しての問題というのは定義されてきたということから言うと、ここでも中期とかの話でなく、やれるところは来年からでもスタートさせる必要があるのではないかと思います。そういうことから考えると、全体を統一するような藤沢駅周辺を考える、また、進めていくというような協議会的なものが必要になってくるのではないかと思います。

P委員

資料1と2で、1つの方向は大分明確になってきたと思うが、市民と話す中で、ここまでは一生懸命できるけれども、この後、実際に具体化する

ときはどうなるのかとみんな心配する。例えば構想はつくったけれども、実際に建築になれば当然、そこは民間がやる話になってしまう。そうすると、本委員会の結論である強制力というか、オーソライズはどうやっていったらいいのか。そういう意味でガイドライン等をつくるということも含めて、どこの機関でこれからのまちづくりに対してオーソライズができるのか、逆に大きな課題になってしまうのではないかと。

もう一点は、コンサルタントの立場から言って、実は商店街のにぎわいづくりはかなり長期にわたってしまう。特に、10年、20年のサイクルで考えなければいけないという計画になっているけれども、ひょっとしたらその間に、現在ある商業者の皆さんがいなくなってしまうのではないかとという心配がある。すべて入れ替える発想であればいいけれども、市としては既存の商業者の皆さんにもっと、もっと活動していただきたい。そして市民との接点をもっと、もっと増やしていきたいということで、将来、再整備のためにいろいろなまちづくり、ハード的な整備はできるけれども、その間、何とか商店街の皆様と市民の交流をもっと深めるような活動を並行してできないか、そして将来、こんなところができたらもっと元気になるという面白さが出せばいいと思っています。前回言った柏駅前のデッキのところでは音楽とかいろいろな交流の場というか、ソフトをつくり上げているということもかなり参考になるのではないかと考えています。

委員長

いろいろご意見が出ましたが、オブザーバーから何かありますか。

アドバイザー

きょうは基本計画について伺ったわけですが、これから検討していくまちづくりの視点が整理できたのかなという印象です。実はこれからやっていく中で、市民に将来の生活スタイルを提案していけるのかというところがまだ判然としないのかなという印象を受けました。例えば藤沢市に住めば親の介護と仕事が両立できるような市だとか、藤沢に住むと子育てがしやすいまちであるとか、辻堂にテラスモールができたけれども、テラスモールを凌駕するような新しい商業の魅力のある藤沢のまちができているとか、そういった将来の消費行動に対しての対応の仕方といった説明ぶりが次の段階では必要になるのかなという感じがしています。そういった意味ではこれからやらなければいけない作業として、藤沢駅周辺の医療、福祉、教育、子育て、文化、観光といったさまざまな駅周辺の地域が持つポテンシャルの現状とそれをどう向上させていけるのか。その上で必要となる街区の敷地の規模と基盤のあり方、それが基盤を少し充実させるぐらいのことでいいのか、それとも昭和の時代につくってきた、これは藤沢だけでなくてどこの街もそうですけれども、敷地と基盤、公共施設のそもそもの再配置をしないと、これからの郊外型のショッピングモール等に対して駅周

辺の機能を向上させて、魅力的な駅街区をつくっていくのにどう足りないのか、そういったダイナミックな動かし方までしていかなければいけないのかというようなところを今回まとめた基本計画の視点に立っての定量的な分析が必要になるのではないかという印象を受けました。

今回、オブザーバーでの参加ですけれども、こういった問題は藤沢だけではなくどこの街も抱えているわけで、国のレベルでも今回の藤沢の取組は参考にするとところがあるので、もし必要ならば、分析の仕方とか技術的な協力はしていきたいと思えますし、全国的な事例を集めることがあれば、引き続きご協力をさせていただきたいと思っています。

F 委員

8 ページのにぎわい・交流というテーマの中で、中心から放射線状に出ている商店街とか通りは、にぎわいづくりのことが書いてあるけれども、肝心の駅中心部のにぎわいづくり、駅舎以外のにぎわいづくりが抜けている。例えば市民まつりとかさまざまなイベントについて中心部を主体にしてやらないと、本当に中心部の活性化は実現できない。各商店街で単独にやるというと利害関係が出ちゃうので、どうしても中心部を利用せざるを得ない。それに対する記載が、恐らく南口の地権者の方々もお願いしたりといろいろ出ているはずです。北口もそうです。その辺のところも触れて検討しないと、周辺の商店街だけのにぎわい・交流では何か1つ抜けているように思うので行政の考えを伺いたい。

事務局

駅周辺街区というのは、駅舎、駅広、それに面する建物等全部含んで表現してきたつもりです。例えば3ページで言いますと、矢印以外の大きな変形たまごのような格好で、老朽化した建物の建て替えも視野に入れながら、いずれはこの辺も建て替えがあるのはわかっておりますので、そこを全部含んでいるつもりで書いております。

委員長

3～4ページの駅周辺については、次のステップへつながるような議論をしたわけだから、それがわかるぐらいまで足してはというN委員、オブザーバーのご意見かと思う。今までは都市計画はこのくらいでいいと、他のことは余り考えないでいいというような風潮が右肩上がりの時はあったけれども、全体が右肩下がりになると、まちづくりのことに對しては医療、福祉、子育て等を同時に考えなければいけないというマーケットになってきたので、そういうことを少しにおわせて入れなければいけないし、緑についてもスタートの部分で何か入っていないと、後から入れるとかなり苦しいので、実はいろいろなところで言っているけれども、それが緑というキーで見ると弱い。パティオにしるというのは、パティオにすれば必ずその真ん中に緑を加えるが、パティオと言っただけでは普通の人は緑までにはいかない。本当にパティオ型にできるかということ、日本の町並みを

パティオにするのは大変なことで、できないと緑はなくなってしまう。その辺を少し直さなければいけないと思う。B委員、P委員の意見はエリアマネジメントと書いてあるところで、自分が事業者なのか協議会の者なのか、NPOなのか、商店街なのか、タブっているのかわからないし、その辺、ちょっと書き込んだ方がいいのかなという気がしました。こういう格好でオーソライズというと、昔はお上が決めればオーソライズだというのが、今はそれはオーソライズではない。あした飯を食う者と5年後まで生き残る者と10年いるかもしれない者と一緒にしてくれるなど、一番まちづくりに困るのは、あした飯を食う人です。その人たちは元気がいいから困るんです。長期的な方はもうくたびれていて、何とかしたいけれども、権利はみんな持っていかれているから、あしたの元気のいい者が嫌だといったら、すべて動かなくなるという状態の中でどうやって合意形成していくかということだと思っんです。そういう人たちが12ページのエリアマネジメントの中に入ってきてくれればいい。例えばユニクロなどはいつでも逃げられるようにしておこうというのがポリシーだから、絶対入ってはこないけれども、そういうのが入ってくれないとできないというのが実態なので、自分がこういうところにいるということがわかるように、もう少し直さなければいけないのかなという気がします。今言ったような趣旨で加筆修正させていただきたいと思うので、委員長、副委員長にご一任いただけますか。

(「異議なし」の声あり)

それでは、その他について、何かありますか。

なければ、事務局にお返しします。

事務局

2年間、計6回にわたりご熱心なご議論をいただき、まことにありがとうございました。委員長、副委員長におかれましては、藤沢駅改良専門部会、南北まちづくり市民検討部会の部会長として、各部会における討議の舵取りにご労苦をおかけいたしました。事務局として心より御礼申し上げます。

検討委員会としては、本日一旦区切らせていただきまして、本日、ご意見をいただいた加筆分等については、正副委員長と相談させていただきながら、調整していきたいと思っいます。次年度以降につきましては、まちづくり方針の策定や各重点プロジェクトに取り組んでまいる所存でございます。当面、25年度で計画の深度化を図ってまいります。特に、急ぐもの等については来週から新年度ですので、すぐに取りかかってまいりたいと思っいます。その際には委員の皆様方の各選出母体とも十分協議をしながら、また、学識の先生方にもご相談しながら、さらに必要に応じ、協議

の組織を立ち上げることも視野に入れつつ作業に取り組んでまいりたい
と思いますので、皆様におかれましては、引き続きご指導のほど、よろし
くお願い申し上げます。2年間、まことにありがとうございました。

委員長
事務局

2年間、皆様のご協力、ありがとうございました。

これをもちまして、藤沢駅周辺地区再整備構想検討委員会を終了させて
いただきます。どうもありがとうございました。

以 上